

作成日：2014年09月01日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

製品名称：ネオリバー S-640  
管理番号3214-1  
製品種類：  
塗膜剥離剤  
主な用途  
推奨用途：浸漬剥離用  
供給者情報詳細  
供給者：三彩化工株式会社  
住所：大阪市北区大淀中3-5-30  
担当部署：技術開発部  
電話番号：06-6451-7851  
FAX：06-6451-1187

### 2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口)：区分 4  
皮膚腐食性及び刺激性：区分 1  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 1  
発がん性：区分 2  
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 1  
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(麻酔作用)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 1

環境有害性

水生環境有害性(急性)：区分 3

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

飲み込むと有害  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
発がんのおそれの疑い  
臓器の障害  
眠気又はめまいのおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害  
水生生物に有害

注意書き

安全対策

使用前に取扱い説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
環境への放出を避けること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。  
 保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。  
 保護眼鏡/保護面を着用すること。  
 指定された個人用保護具を使用すること。  
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

#### 応急措置

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 口をすすぐこと。  
 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

#### 保管

施錠して保管すること。  
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

#### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

#### 有害性

有機溶剤中毒を起こす恐れがある。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：  
 混合物

成分名	含有量(%)	CAS No.
ジクロロメタン	87	75-09-2
ギ酸	5 - 10	64-18-6
酢酸エチル	1 - 5	141-78-6
イソプロピルアルコール	1 - 5	67-63-0

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

### 4. 応急措置

#### 応急措置の記述

##### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 気分が悪いときは医師に連絡すること。

##### 皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。  
 溶剤、シンナーを使用してはならない。  
 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合

直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗う。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

嘔吐物を飲み込ませてはならない。

医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

適切な換気を確保する。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

---

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

周辺設備に適した消火剤を使用する。

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。

消火水の下水への流入を防ぐ。

指定の消火剤を使用すること。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

こぼれた場所はすべりやすいため注意する。

### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の河川、下水、排水溝、低地への流出を防止し、環境への影響を起こさないよう注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

スコップ、ウエス等で容器に回収する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管し、安全な場所に移す。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

#### 局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。また、容器はその都度密栓する。

### 注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

#### 安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

#### 配合禁忌等、安全な保管条件

##### 適切な保管条件

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

日光の直射を避ける。通風のよいところに保管する。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

#### 管理濃度

(酢酸エチル)

作業環境評価基準(2004) <= 200 ppm

(イソプロピルアルコール)

作業環境評価基準(2004) <= 200 ppm

(ジクロロメタン)

作業環境評価基準(2004) <= 50 ppm

#### 許容濃度

(酢酸エチル)

ACGIH(1979) TWA: 400ppm (上気道および眼刺激)

(ギ酸)

ACGIH(1965) TWA: 5ppm

STEL: 10ppm (上気道, 眼および皮膚刺激)

(イソプロピルアルコール)

ACGIH(2001) TWA: 200ppm

STEL: 400ppm (眼および上気道刺激; 中枢神経系損傷)

(ジクロロメタン)

ACGIH(1997) TWA: 50ppm (一酸化炭素ヘモグロビン血症; 中枢神経系損傷)

### ばく露防止

#### 設備対策

屋内作業の場合は、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるようにする。タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所、特に底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

#### 保護具

##### 呼吸用保護具

有機ガス用防毒マスクを着用する。密閉された場所では送気マスクを着用する。

##### 手の保護具

有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

##### 眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。(化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。)

#### 衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保護具は定期的に点検する。

保護具は、そのほとんどが直接はく離剤に触れると腐食されるため、はく離剤が付着した場合には直ちに布などで除去し、水洗いした後に再使用する。著しく膨潤、又は、溶解している場合は、使用を中止する。

取扱い後はよく手を洗う。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状 :液体

色 :無色

臭い :刺激臭

pH :適用外(1%水分散液で2.5[代表値])

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点 :40.2~64.7℃ [参考値]

引火点 :なし

自然発火温度 :539℃ [参考値]

爆発特性 :引火又は爆発範囲

下限 :14vol %

上限 :57vol %

蒸気圧 :46500 Pa(20℃) [参考値]

比重/密度 :1.27(20℃) [代表値]

溶解度

水に対する溶解度 :難溶

---

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

標準的条件では危険な反応はしない。

混触危険物質

塩基、強塩基

アルカリとの接触により発熱する。

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

塩素系ガス

---

## 11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(ギ酸)

rat LD50=730-1830 mg/kg (DFGOT, 2003)

(イソプロピルアルコール)

rat LD50=3437 mg/kg (計算値)

(ジクロロメタン)

rat LD50=1600 mg/kg (環境省環境リスク第2巻, 2003)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

(イソプロピルアルコール)

rabbit LD50=4059 mg/kg (CERIハザードデータ集, 1999)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

vapor : rat LC50=13856 ppm/4hr (ACGIH, 2001)

(ギ酸)

vapor : rat LC50=3931 ppm (DFGOT, 2003)

労働基準法: 疾病化学物質

酢酸エチル; ジクロロメタン

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

皮膚腐食性/刺激性成分データ

[日本公表根拠データ]

(ギ酸)

ラビット/ヒト 腐食性 (DFGOT, 2003et al)

(ジクロロメタン)

ラビット 810 mg/24H ; SEVERE

眼に対する重篤な損傷・刺激性

眼損傷性/刺激性成分データ

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

ラビット Draize test MMAS=15.0 (ECETOC TR48, 1998)

(ギ酸)

ラビット/ヒト 腐食性 (DFGOT, 2003et al)

(イソプロピルアルコール)

ラビット (CERIハザードデータ集, 1999et al)

(ジクロロメタン)

ラビット 162 mg ; MODERATE ラビット 10 mg ; MILD

感作性データなし

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

変異原性: 厚労省局長通達

(ジクロロメタン)

催奇形性データなし

発がん性

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

IARC (1999) Gr.2B et al

(イソプロピルアルコール)

IARC-Gr.3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(ジクロロメタン)

IARC-Gr.2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(ジクロロメタン)

ACGIH-A3(1997) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(イソプロピルアルコール)

ACGIH-A4(2001) : ヒト発がん性因子として分類できない

(ジクロロメタン)

日本産衛学会-2B: 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

(ジクロロメタン)

EU-発がん性カテゴリ3; ヒト発がん性の可能性がある

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

(イソプロピルアルコール) cat.2; ACGIH, 2003

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

## 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

## [区分1]

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン) 中枢神経系、呼吸器 (CERI・NITE有害性評価書 No.15, 2004)

(ギ酸) 呼吸器、血管、腎臓 (DFGOT, 2003)

(イソプロピルアルコール) 中枢神経系、腎臓、全身毒性 (ACGIH, 2003)

## [区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル) 気道刺激性 (ACGIH, 2001)

(イソプロピルアルコール) 気道刺激性 (ACGIH, 2003)

## [区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン) 麻酔作用 (CERI・NITE有害性評価書 No.15, 2004)

(酢酸エチル) 麻酔作用 (ACGIH, 2001)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

## [区分1]

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン) 中枢神経系、肝臓 (CERI・NITE有害性評価書 No.15, 2004)

## [区分2]

[日本公表根拠データ]

(ギ酸) 上気道 (環境省リスク評価 第6巻, 2008)

(イソプロピルアルコール) 血管、肝臓、脾臓 (EHC, 1990)

吸引性呼吸器有害性データなし

その他情報

この製品自体のデータは得られていない。

---

12. 環境影響情報

## 生態毒性

## 水生毒性

水生生物に有害

## 水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

甲殻類(オオミジンコ) LC50 = 2,500mg/L/24hr(SIDS, 2008)

(ギ酸)

藻類(セネデスムス) EC50 = 25mg/L/96hr (HSDB, 2009)

(イソプロピルアルコール)

魚類(ヒメダカ) LC50 &gt; 100 mg/L/96hr (環境省, 1997)

(ジクロロメタン)

甲殻類(オオミジンコ) LC50=27 mg/L/48hr (CaPSAR, 1993)

## 水溶解度

(酢酸エチル)

8 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005)

(ギ酸)

混和する (ICSC, 1997)

(イソプロピルアルコール)

100 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005)

(ジクロロメタン)

1.3 g/100 ml (20 C) (ICSC, 2000)

## 残留性・分解性

(ギ酸)

BODによる分解度: 110% (既存化学物質安全性点検データ)

(ジクロロメタン)

BODによる分解度:13% (既存化学物質安全性点検データ)

生体蓄積性

(ギ酸)

log Pow=-0.54 (PHYSPROP Database, 2005)

(イソプロピルアルコール)

log Pow=0.05 (ICSC, 1999)

(ジクロロメタン)

log Pow=1.25 (ICSC, 2000) ; BCF=40(Check & Review, Japan)

(酢酸エチル)

log Pow=0.73 (ICSC, 1997)

その他情報

この製品自体のデータは得られていない。

---

### 13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃液、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律や関係する法規に従って処理を行うか、委託する。

容器、機器、装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。

汚染容器及び包装

空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

---

### 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 :2922

品名(国連輸送名) :

腐食性液体、毒性、N.O.S.(ギ酸、ジクロロメタン)

国連分類(輸送における危険有害性クラス) :8

国連分類(輸送における危険有害性副次リスク) :6.1

容器等級 :III

指針番号 :154

特別規定 :223; 274

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

ギ酸; ジクロロメタン

有害液体物質(Z類)

酢酸エチル; イソプロピルアルコール

---

### 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

労働安全衛生法

特定化学物質 第2類

ジクロロメタン

第2種有機溶剤等

名称表示危険/有害物(令18条)

イソプロピルアルコール; 酢酸エチル; ジクロロメタン

健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項)

ジクロロメタン



有害物ばく露作業報告対象物質(平成25年対象・26年報告)  
 ジクロロメタン  
 名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9)  
 イソプロピルアルコール; ジクロロメタン; 酢酸エチル; ギ酸  
 化学物質管理促進(PRTR)法  
 第1種指定化学物質  
 ジクロロメタン  
 消防法に該当しない。  
 化審法  
 優先評価化学物質  
 ジクロロメタン; イソプロピルアルコール; ギ酸  
 悪臭防止法  
 酢酸エチル  
 大気汚染防止法  
 有害大気汚染物質/優先取組(中環審第9次答申)  
 ジクロロメタン  
 船舶安全法  
 腐食性物質 分類8  
 航空法  
 腐食性物質 分類8  
 廃棄物処理法  
 特別管理産業廃棄物:特定有害産業廃棄物  
 ジクロロメタン  
 土壌汚染対策法  
 第一種特定有害物質 揮発性有機化合物  
 ジクロロメタン  
 水質汚濁防止法 有害物質  
 ジクロロメタン

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN  
 Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN  
 Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)  
 2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)  
 2014 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>  
 JIS Z 7253 (2012年)  
 Supplier's data/information  
 製品評価技術基盤機構:GHS分類データベース  
 溶剤ポケットブック」有機合成化学協会編  
 日本塗料工業会「GHS対応 MSDS・ラベル作成ガイドブック」  
 化学工業日報社「ラベル・製品安全データシート作成実務必携 GHS対応国内版」  
 安全衛生情報センター

### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
 ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。